

算 数

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付けさせる授業を構想しましょう。

算数科では、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、各学年の内容に示されている「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を偏りなく身に付けさせることが重要です。そのため、単元を通して育成を目指す「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を明確にするとともに、1単位時間の指導においては、育成を目指す資質・能力を踏まえた数学的活動や「見通す・振り返る」学習活動の充実を図ることが大切です。

1 育成を目指す資質・能力を踏まえて、単元の指導計画及び1単位時間の授業の展開を見直しましょう。

〔指導計画〕

- 単元名 小数のわり算 第5学年「A 数と計算」
- 単元の指導計画（11時間）

指導内容（資質・能力）		授業時間数	数学的活動
整数÷小数の除法の意味	除数が小数である場合の小数の除法の意味について理解する。（新学習指導要領：「知識及び技能」A(3)ア(7)）	1時間	問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動（新学習指導要領：数学的活動ウ）
整数÷小数の除法の計算の仕方（本時2/11）	乗法の意味に着目し、除数が小数である場合まで数の範囲を広げて除法の意味を捉え直すとともに、計算の仕方を考える。（新学習指導要領：「思考力、判断力、表現力等」A(3)イ(7)）	1時間	

🔑 ポイント①へ

- 本時の目標
言葉や式、数直線等を用いて整数÷小数の除法の計算の仕方を考え、説明することができる。
- 本時の展開

指導と学習活動	評価と配慮事項
<p>1. 問題を確認する。（前時の続き）</p> <p>【問題】 1. 2mの重さが180gの針金があります。この針金の1mの重さは何gでしょうか。</p> <p>・前時の学習のまとめと、たてた式を確認する。 「1mの値段を求めるときには、整数のとときと同じように、割り算の式をたてます。」 「180÷1.2の計算の仕方を考え、説明しよう。」</p> <p>2. 解決方法の見通しをもち、課題を焦点化する。</p> <p>・少しの時間、個人で計算の仕方を考える。🔑 ポイント③へ</p> <p>・どうすれば計算できそうかを発表する。 「整数×小数の計算の仕方をもとにできないかな…」 「0.1mの重さを求めて…」 「12mの重さを求めて…」 「数直線を使えば、計算の仕方を説明できそうだ」</p> <p>【課題】 言葉や式、数直線などを使って、180÷1.2の計算の仕方を考え、説明しよう。</p>	<p>・問題提示から課題提示までは、問題の内容を児童が把握できる時間を確保した上で、できるだけ短時間で進める。</p> <p>・かけ算の計算の仕方や数直線の活用など、解決に活かせる既習事項が何かを明確にするために、見通しを発表させる。</p> <p>・整数のわり算でできるようにする工夫に気付け、板書する。</p> <p>【数学的な考え方】 整数÷小数の計算の仕方を、言葉や式、数直線や式等を用いて考え、説明している。〔観察、ノート〕</p>
<p>3. 計算の仕方を考え、説明する。🔑 ポイント②へ</p> <p>・個人で考える。 ※友達への相談や教科書をヒントに考えてもよい</p> <p>・計算の仕方と答えが正しいか、計算の仕方の共通点は何かを全体で話し合う。</p>	<p>・整数のわり算でできるようにする工夫に気付け、板書する。</p>
<p>4. 分かったことをまとめる。</p> <p>【まとめ】 整数の計算でできるように工夫すると、答えを求めることができる。</p>	
<p>5. 練習問題に取り組み、学習の振り返りをする。</p> <p>・練習問題に取り組む。</p> <p>・課題の解決に役立った考え方、友達との考えのよさ、分かったことなどを振り返る。🔑 ポイント③へ</p>	<p>・練習問題では、計算の仕方をペアで説明し合うようにする。</p>

改善のポイント

- ①「何ができるようになるか」を明確にして単元の指導計画を作成しましょう。
- ②数学的な見方・考え方を働かせることができる数学的活動を具体化しましょう。
- ③既習事項や学習内容と関連を図った「見通す・振り返る」学習活動を位置付けましょう。

🔑 ポイント①

単元の指導計画に育成を目指す資質・能力を明記することで、「何ができるようになるか」を明確にします。また、必要な数学的活動などを明記することで、1単位時間の指導の充実につながります。

🔑 ポイント②

「整数÷小数の除法の計算の仕方を考え、説明することができる」がねらいのため、既習の「整数÷整数」や「整数×小数」の計算の仕方に着目し、図や表を用いて説明する数学的活動を位置付けます。

🔑 ポイント③

【見通す】
・既習事項との関連を図りながら問題場面で提示された事柄について考察する場面を位置付けます。見通しは、何をどこまで見通させるのか想定しておきます。

〈見通しの種類〉

- ・ゴール
- ・解決の方法、手順
- ・見積もり など

【振り返る】

・本時のねらいを踏まえ、単に計算させるのではなく、本時の学習内容を確認し、児童自身が分かった実感をもてるよう、計算の仕方を説明し合ったり、説明を書く練習問題を行ったりする数学的活動を位置付けます。

〈振り返りの種類〉

- ・分かったこと
- ・解決の過程
- ・自分の成長 など